

### 第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

#### ■令和元年度 第4回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

##### ・木造住宅の簡易な性能評価法の開発（事後評価）

評価結果を踏まえ、開発した性能評価手法を中小工務店が一般建築主向けの説明に使用する際、性能表示制度を利用することによる長期的なメリットを説明すること、実施設計段階ではなく、基本設計段階で活用できるシステムとして普及すること、将来計画として、耐震等級とあわせて省エネ基準適合の評価ができるような CAD データ共有システムを構築すること、継続的な維持管理のために、中小工務店が加盟している団体等との協力・連携に取り組んでまいりたい。

また、開発した性能評価手法が今後も適切に用いられるように、中小工務店や意匠設計者への耐震に対する啓蒙活動や、データの適切な使用に関する検討も継続して行ってまいりたい。

##### ・建築設備の自動制御技術によるエネルギー削減効果の評価法の開発（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究で得られた自動制御技術に関わる設計図書や実測データを活用して、新築や改修の計画初期段階において、建築主や設計者が自動制御技術の種類や特徴を理解し、各技術の省エネルギー効果の評価可能とするためのガイドラインやマニュアル等の整備を図って参りたい。

また、現状の省エネルギー基準では評価ができない自動制御技術について、今後も IoT や AI 等の新技術を活用した自動制御技術の開発動向を継続的に調査しつつ、エネルギー削減効果の評価法について引き続き検討を行い、基準適合判定ツール（Web プログラム）で評価可能な技術の拡張を進めて参りたい。

#### ■令和元年度 第5回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

##### ・社会資本整備プロセスにおける現場生産性向上に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究の成果をとりまとめたガイドライン等については、地方公共団体等による社会資本整備プロセスの改善検討に活用されるよう、本省関係課とも調整しつつ、成果普及を行って参りたい。

特に、土木構造物設計ガイドラインの現場での活用を通じて、全体最適設計を実際に適用する際の課題や考慮すべき事項（コスト換算が難しい項目の総合的な評価方法）等について更に検討を進め、フィードバックを実施して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・道路インフラと自動車技術との連携による次世代 ITS の開発（追跡評価）

評価結果を踏まえ、通信方式や車両側情報の活用、国際標準化等の自動運転の協調について、自動車メーカー、高速道路会社等と行っている「次世代の協調 ITS の実用化に向けた技術開発に関する共同研究」や、省庁連携で取り組んでいる「内閣府戦略的イノベーション創造プログラム第2期自動運転（SIP-adus）」において、引き続き取組を進めたい。

その他、ご指摘頂いた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和元年度 第6回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・高潮災害に対する港湾地帯の安全性の確保に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、港湾施設、海岸保全施設等の設計条件の検討、整備効果の検討等への本研究成果の活用を図るとともに、港湾管理者等と連携した簡易潮位観測システムによる潮位観測網の充実および観測データのリアルタイム電送化を図って参りたい。

その他、ご指摘頂いた事項についても、実務で必要とされる精度を定量的に把握し、観測・解析・予測といった本研究の要素技術の個々の精度が全体の精度に及ぼす影響に留意しつつ、システム全体の精度向上を効率的に図って参りたい。また、確率台風モデルの研究成果を活用するなど、浸水リスクの確率評価を追求して参りたい。

・既存港湾施設の長寿命化・有効活用に関する実務的評価手法に関する研究（事後評価）

事例データの蓄積についてはすでに整備局への依頼の他、蓄積スキームも確立しており、今後のシステムのカスタマイズに活用する予定となっている。

また、具体的な補修等の判断や耐荷力の定量化に向けては上記事例について可能な限りの多くの蓄積が有力な情報源となると思われるため発信可能なレベルを目指し、検討を継続して参りたい。